

## 「小・中学校等における起業体験推進事業」実施計画書

| 1. 実施主体                |   |
|------------------------|---|
| 本事業を受託する教育委員会          | 京都府教育委員会  |
| 2. 現状及び課題              |   |
| 学校及び地域におけるキャリア教育の現状    | <p>○【京都府】<br/>各校において、キャリア教育に関する理解や実践が進んできたが、学校や地域によって推進状況に差がある状況である。</p> <p>○【西別院小学校】<br/>亀岡市西別院町子ども心の教育推進事業の一環として、平成26年2月に2単位授業、平成27年1～2月に6単位授業＋課外授業3時間を中・高学年を対象に起業家教育の基礎ワークショップを実施した。具体的な内容としては、NPO法人アントレプレナーシップ開発センターの理事長を講師として迎え、西別院町を活性化するためにできることは何かをテーマに、町を発展するために新しい仕事を提案したり、地元で活躍される方に取材して地域を宣伝するCMづくりを行った。</p> <p>○【和知中学校】<br/>校内では、2年生の職場体験学習をキャリア教育のメインの活動として実施している。2年前からは、生徒数の減少に伴い、体験先を和知町内に絞り、生徒の希望を重視しながら、一人一事業所を原則として、地域の事業所には大変協力をいただいている状況である。</p>   |
| 学校及び地域におけるキャリア教育に関する課題 | <p>○【京都府】<br/>キャリア教育の視点に立った教育課程の改善と、校種間や地域等との連携を強化した組織的・系統的なキャリア教育の推進が課題である。また、起業家教育については、あまり進んでいない状況である。</p> <p>○【西別院小学校】<br/>校区が山間部の過疎地に位置することもあり、事業所や産業の種類が少なく、多様な仕事について調べたり、体験したりする機会が限られている。そのため、社会見学等で消防署や警察署等の見学をしたり、京都市の大学に出向いて大学の環境やカリキュラム等についての学習を行うなどの工夫を行ってきた。しかしながら、地域の身近な環境で若い人が活躍する様子を見る機会、そのような方々に授業に参画してもらえる機会も少なく、これらの学習が自分のこととして身近にとらえることが難しい現状がある。また、全校児童23名という少人数であるため、高学年だけの活動では、内容に拡がりがなく中・高学年合同で取り組みを進めてきたが、学年によって理解や発想、スキルに差異が見られ、学習の目的の達成度が十分ではないのも課題である。</p> <p>○【和知中学校】<br/>本地域は京丹波町内の中でも過疎化、高齢化が進行している地域であり生徒数も年々減少しており、本年度も本校開校以来最も少ない全校生徒62名となっている。現在、小中一貫教育を見据えた取組を始めたところであるが、キャリア教育についても9年間を見通した計画を作成していくことが急務である。</p> |

| 3. 委託内容に対する取組 |   |
|---------------|---|
| 実施する学校        | <p>亀岡市立西別院小学校<br/>京丹波町立和知中学校</p>  |
| 目標            | <p>○【京都府】<br/>起業家精神(チャレンジ精神、創造性、探究心等)と起業家的資質・能力(情報収集・分析力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション能力等)を育成する起業家教育について、府内の教職員に普及する。</p> <p>○【西別院小学校】<br/>起業体験活動を通して、リーダーシップ、協調性、コミュニケーション能力、情報収集・分析能力、表現力を向上させるとともに、故郷「西別院」が持っている可能性や資源についてより深く理解し、さらによくするための具体的な方法や仕事等について考え、実践を通じて、どのような職業についても必要になる起業家的行動能力を培いたい。また、このような体験がきっかけとなり、将来、進学して都会に出たとしても、地元に戻ってきて起業し、地域の活性化に貢献するリーダー人材が育成できればと考えている。</p> <p>○【和知中学校】<br/>起業家による講演では、働くことは必ずしも会社や役所に雇われ、給料をもらうだけでなく、自ら起業して商売したり、社会に貢献する非営利事業を仕事にしたりする選択肢があることを理解させる。とりわけ、過疎地などで勤務できる会社が限られている場合、農地や山林など地域の資源や黒大豆、丹波栗などの特産物等を活用しながら自営するだけでなく、ITなどの技術を活用してそれらの加工品を作り、販路を拡大して直接販売するなど、新しい形の商売を行うことで、地元貢献しながら働く可能性に気づかせる。ワークショップでは、地域の良さ(魅力)を再確認した上で、自分達の故郷が活気ある場所であるために、地域の資源や新しい方法を使って、どんな仕事を創っていけるかを考え、起業という働き方について理解を深めるとともに、地域の将来について前向きに考えさせる機会とする。</p>   |
| 取組計画          | <p>○【京都府】<br/>京都府小・中・高等学校キャリア教育推進協議会でNPO法人アントレプレナーシップ開発センターの方から、西別院小学校・和知中学校の取組状況を踏まえて、起業家教育の意義と必要性を講義いただき、教職員への理解を図る。</p> <p>○【西別院小学校】<br/>実施にあたっては、今まで、外部講師に基礎的な導入ワークショップというだけで行っていたが、次年度からは、学校の総合学習のなかのカリキュラムにしっかりと位置づけ、教員が研修を受け、地域の方々の協力を得ながら、指導する形にしていく予定である。ついでには、地域の支援団体との連携の仕組みをつくるために、「起業体験活動推進委員会」を立ち上げ、関連機関と授業の趣旨や内容について協議し、理解を得たうえで、実際に課外活動などで調査活動や商品開発・販売実践を行うにあたり協力を得ていく予定である。</p> <p>また、授業としては、4年、5年、6年生が合同で議論しながら主体的に活動を行っていく中で、地域の資源を活用した商品アイデアを出し、商品化して販売実践まで行う。在庫が発生して赤字決算にならないようどうするかを、商品企画の段階から検討し、販売実践で成果を出せるように、本分野の専門家であるアントレプレナーシップ開発センターの協力を得て、外部機関との調整や児童への助言指導を依頼する予定である。商品開発の材料費は、基本的には、販売した収益から捻出し、黒字を出して、その収益を何に使うかまで検討させたいと考えている。</p> <p>1 起業体験活動推進委員会の開催<br/> (1) 5月 第1回…授業計画の共有と連携機関との調整<br/> (2) 6月 第2回…職員研修と今後の授業の進め方と連携内容の確認<br/> (3) 8月 第3回…提案商品の開発・販売の進め方の調整<br/> (4) 10月 第4回…提案商品の開発・販売の協力について<br/> (5) 1月 第5回…総括会議</p> <p>2 授業の実施【育成したい力】<br/> (1) 「西別院町を知ろう!」【情報収集力】<br/> (2) 「会社を設立しよう!」【チャレンジ精神、探求心、リーダーシップ、協調性】<br/> (3) 「仕事をしよう!」【コミュニケーション能力、判断力、協調性、ICTスキル】<br/> (4) 「事業のまとめ」【分析能力、表現力、チャレンジ精神】</p> |

○【和知中学校】

従来から進路学習の中で実施していた、1年生での「職業調べ」の後に、「起業家による講演会」、講演会後に地域の資源を活用して雇用を生み出すための新しい事業提案を行う活動「起業について考えるワークショップ」を実施したいと考えている。従って、1年生でのキャリア教育のプログラムを、「職業調べ」→「起業家による講演会」→「起業について考えるワークショップ」という流れを定着させたいと考えている。

《育成したい力》

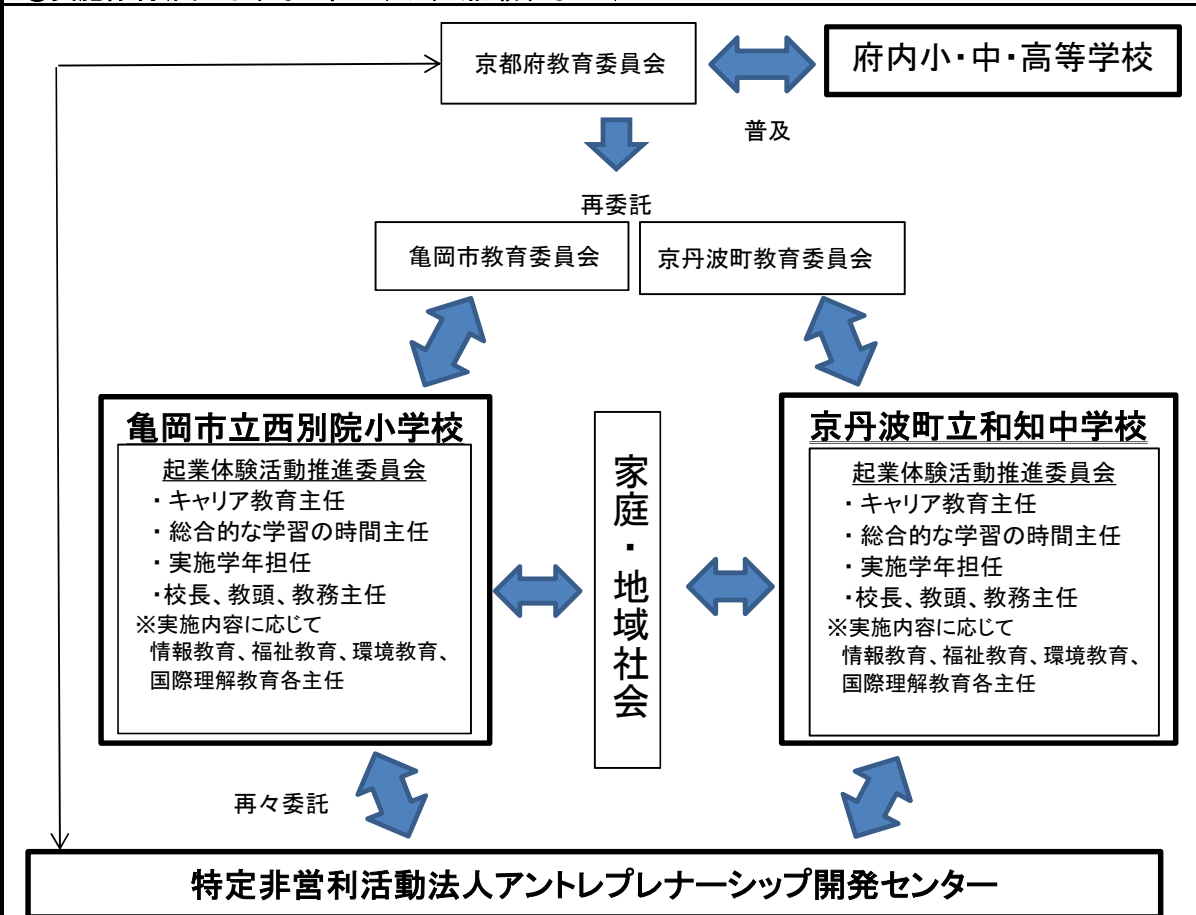
- (1) 情報を収集し、それを活用する能力
- (2) コミュニケーション能力
- (3) 課題解決に向け、力強く取り組もうとする力

《取組計画》

- (1) 「職業調べ」(2時間)・・・従来から進路学習として実施している職業調査
- (2) 「起業家による講演会」(2時間)・・・起業についての基礎知識の習得
- (3) 「起業について考えるワークショップ」(2～3時間)・・・小グループによる協議・調査
- (4) 「学習発表会」(1時間)・・・保護者等を招いた発表会(担当者による評価)

(1) 学校において起業体験活動を実施するためのモデルの構築

①実施体制(図で示すなどわかりやすく記載すること)



②授業をサポートする団体(予定でも可)

特定非営利活動法人アントレプレナーシップ開発センター  
 西別院町犬甘野営農組合  
 和知町内事業所

### ③取組内容

#### ○【西別院小学校】

- 1 実施対象学年 4・5・6年
- 2 総合的な学習の時間 [大空タイム] 約35時間 (ふるさと学習かめおか学を含む)
- 3 実施期間 平成28年4月～平成29年1月
- 4 「学習内容」【実施時期】(授業時数)
  - (1) 「西別院町を知ろう!」【6月】(6時間)
    - ・起業体験学習とは?(外部講師)
    - ・西別院町って?(地域の講師)
    - ・自分達に何ができるか考えよう!(地域の産業の取材)
  - (2) 「会社を設立しよう!」【7月～9月】(10時間)
    - ・社名や会社の果たすミッション(使命)について確認
    - ・具体的にどんな仕事で、西別院に役立つのか検討!(外部講師)
    - ・発生する業務や必要な部署(広報課、商品開発課、販売促進課、イベント課等)を考える
    - ・役割分担を決定し、各自の仕事内容を確認したら、業務計画と目標設定をする
  - (3) 「仕事をしよう!」【10月～11月】(15時間)
    - ・取り扱う商品(製品・サービス)の提案
    - ・ニーズ調査と最終的に取り扱う商品の決定
    - ・仕入交渉や商品づくり(外部講師)
    - ・広報ツールの作成やHPで発信(外部講師)
    - ・販売体験(地元の営農組合や京都市内でのトレードフェアで)(地域の人にも参画)
  - (4) 「事業のまとめ」【12月】(4時間)
    - ・事業の振り返り:課題と成果の確認と次への挑戦に向けて
  - (5) 授業参観・発表会の開催【1～2月】
    - ・1年間の学習の内容を発表

#### ○【和知中学校】

1年生の進路学習の一環として位置づけ、「学級活動の時間」と「総合的な学習の時間」を活用して実施する。取組期間は、10月から2月までの期間を想定している。「起業家による講演会」で事前事後指導を含め3時間、「起業について考えるワークショップ」の活動では、小グループ(4～5人)でどのような起業ができるかを考えさせ、小グループ毎にプレゼンテーション(発表)、起業家講演会でのお世話になった講師の方や町内の事業所の方からのプレゼンへの評価等を盛り込んだ活動とし、事前事後の指導を含め約5時間扱いで実施したいと考えている。プログラムの流れについては、「職業調べ学習」を終えた後で、「起業家による講演会」、更に「起業について考えるワークショップ」につなげていきたい。講演会では、中学生が理解しやすい仕事内容、かつ地元の資源を活用して活躍されている起業家の方を講師として招きたい。また、講演をお願いするにあたって、生徒に伝えていただきたいことを明確にして事前の打ち合わせを十分行うように留意したい。また、「起業について考えるワークショップ」の活動では、ファシリテーターとしてNPO法人京都アントレプレナーシップ開発センターから講師を招く予定である。

#### 《「学習内容」【実施時期】(授業時数)》

- (1) 「職業調べ」【11月】(2時間)・・・従来から進路学習として実施している。自分になりたい(興味がある)職業を選び、図書やIT機器、保護者への聞き取り等により、就業の方法・仕事内容・将来性などを各自でまとめ、紹介する。
- (2) 「起業家による講演会」【11月】(2時間)・・・「地域の資源や人材を活用して、雇用を生み出すための新しい事業提案を行う活動」について講演を聴く。中学生が理解しやすい仕事内容、かつ地元の資源を活用して活躍されている起業家の方を講師として招く予定である。
- (3) 「起業について考えるワークショップ」【1月】(2～3時間)・・・講演で得た知識や思いを基盤に、4～5人の小グループで、地元の資源や人材を生かした起業について考える。(起業の条件整備や運営、今後の見通しなどを協議・調査する。特に過疎化、高齢化に対応する視点を取り入れる。) ファシリテーターとして、NPO法人京都アントレプレナーシップ開発センターから講師を招く予定である。
- (4) 「学習発表会」【2月】(1時間)・・・保護者等を招いて、グループごとに発表する。各発表について、講師(担当者)から評価を受ける。また、参加者アンケートから内容や今後の取組の方向性を探る。

## (2) 域内の学校に普及するための取組

### ① 域内の学校への普及方法について

京都府小・中・高等学校キャリア教育推進協議会でNPO法人アントレプレナーシップ開発センターの方から、西別院小学校・和知中学校の取組状況を踏まえて、起業家教育の意義と必要性を講義いただき、教職員への理解を図る。

### ② 地域・保護者等への周知方法について

- ・ホームページ、学校だより、学年だより等での紹介
- ・授業参観、学習発表会の開催

### (3) その他の取組

#### ○【和知中学校】

平成25年度から町内にある府立須知高校が実施している、「食べ物コンテスト」に全校生徒が応募している。この取組は、家庭科の夏期休業中の宿題として定着しており、食の宝庫である京丹波町の食材を生かしたアイデアあふれる食べ物やスイーツをイラスト等を入れながらペーパーで提案するコンテストである。この取組を起業について考えるワークショップとリンクさせたい。

## 4. スケジュール

| 実施時期    | 実施内容                         |
|---------|------------------------------|
| 4月      | NPOと連携して詳細な授業計画の立案と連携機関との調整  |
| 5月      | 連携機関との第一回目の会議と授業内容の確認・修正     |
| 6月      | 授業の推進に向けての職員研修と活動準備          |
| 6月      | 京都府小・中・高等学校キャリア教育推進協議会【京都府】  |
| 7月～9月   | 会社設立と商品開発・販売計画や活動の情報発信       |
| 10月     | 起業家による講演会                    |
| 10月～11月 | 連携団体の協力を得ながら、児童達による会社運営と販売活動 |
| 1月～2月   | 職業について考えるワークショップ及びプレゼンテーション  |
| 12月～3月  | 事業の振り返り(成果と課題、次回に向けての修正、改善)  |
|         |                              |
|         |                              |
|         |                              |
|         |                              |

## 5. 取組により見込まれる成果とその検証方法

### ○見込まれる成果

- 1 自分の住む町の知らないところを再発見し、良さ(ふるさとへの愛着・誇り)を認識することができる。
- 2 地域の人口減少を食い止め、地域を活性化させるには、仕事(働く場)が必要であることを理解するとともに、仕事とは雇ってもらっただけでなく、自分で作っていくこともできることを理解できるようになる。
- 3 仕事の厳しさややりがいを感じることで、「働くこと」をより具体的にイメージすることができる。
- 4 様々な職業に就くことに加えて、起業(自分で仕事を考え実践すること)という選択肢があることに気づく。
- 5 仲間と活動することにより、集団で成功させることの喜びや困難さを体験することができる。
- 6 コミュニケーション能力、協調性、折り合う力、伝えるための表現力等を身に付けることができる。

### ○検証方法

・学習の理解度を図る児童生徒アンケート、感想文、学習内容の成果物(レポート、新聞等)を評価・分析することにより、見込まれる成果の検証を行う。